

看護の統合と実践

【看護の統合と実践の考え方】

看護の統合と実践は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱで学習した内容をより臨床実践に近い形で学習し、知識・技術・態度を統合し実践する能力を養う。

当校では社会に貢献できる看護者を育成するため、専門職業人として広い視野を持ち、自己研鑽能力の向上及びあらゆる活動の場で看護を実践できるようにと科目立てをした。

内容としては、組織における看護師の役割を理解するとともに、医療チーム及び他職種との連携のなかで、看護師としてのメンバーシップ、及びリーダーシップを理解すること、看護の活動領域として、災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解すること、看護師として国際協力について考えることができること、医療安全の基礎的知識を習得すること、看護研究の基礎的能力を身につけること等の内容とする。

災害看護と看護管理では、専門職業人に求められる社会支援として、災害医療・災害看護に関する基礎的知識と技術、看護の国際貢献について基礎的な理解を深める内容を教授する。

また組織における看護師の役割を理解し、チームの一員として患者満足度を高める環境づくりの考え方や看護サービスの提供について深める内容を教授する。

看護研究では事例研究を行い、自己の看護実践によってもたらされた患者の反応を客観的・論理的に捉え、患者の反応のもつ意味などについて文献検討を通して深めていく。これら一連の過程を通して研究の意義や方法を理解し、問題解決における基礎的能力と研究的態度を養うとともに、自己の看護観を更に深めていく内容とする。

医療安全は各看護学の中でも学んでいくが、2年次の臨地実習前に事故防止のための基本的知識を深め、自分も事故を起こす存在であることを認識し、事例を通して危険認識力と危機回避のための判断力を養う内容とする。

臨床看護の実践ではより臨床に近い擬似環境での学習を充実させることで、優先度や患者の安全を考え適切に判断・対応ができるように考えた。

各看護学、医療安全での学びも踏まえ、看護者としての倫理的判断と配慮の必要性について再度考え安全に対する意識をより深めていく。また状況に応じた安全な援助を目指し事例に基づいた援助・複数事例の看護計画立案及び、一人ひとりの患者の状態に応じた看護の実践を通して、リスクセンスを高め判断力を養う。

看護の統合と実践の臨地実習では、再度既習の知識・技術・態度を統合させて学び、看護実践能力を高めることを目指す。看護管理及び他部門での実習を行なうことで、組織の中での連携と看護師の役割の理解を深めていく。また専門分野での実習を踏まえ、実務に即した実習を行うため複数の患者を受け持ち、一勤務帯を通した実習を取り入れる。

【目的】

専門職業人としての意識をもち、看護に求められている社会的ニーズを理解し、適切な看護を提供できるよう、既習の知識と技術を統合して実践できる能力を養う。

【目標】

1. 組織の中での看護師の役割を理解し、看護管理の基礎的知識を習得する。
2. 専門職業人として求められる社会支援として、災害医療・災害看護に関する基礎的知識を習得する。
3. 国際社会での諸外国との協力について考えることができる。
4. 看護研究の意義と方法の理解といった基礎的知識と研究的態度を養う。
5. 安全な医療の提供に向けて、リスクセンスを高め判断力を養う。
6. 複数の事例を通して知識・技術の統合と総合的な判断を学び、患者の状態に応じた看護を実践する能力を養う。

【構成および計画】 [講義]

科目	授業科目	単位数 (時間数)	学年別計画時期		
			1年	2年	3年
看護の統合と実践	災害看護と看護管理	1 (15)			1 (15)
	看護研究	1 (30)		1 (30)	
	医療安全	1 (15)		1 (15)	
	臨床看護の実践	1 (30)			1 (30)
合 計		4 (90)		2 (45)	2 (45)